

銀漢亭日録



伊藤伊那男

2月20日（火）▼法政大学高柳先生と伊那谷出身の方々四人。中村湖童さん幹事の初句会を発行所で。あと六人店へ。

22日(木)▼昨晚、山梨県甲府市に住む宮澤の父上鍊治氏逝去。九十二歳。江戸城天守閣を再建する会の方々三人。伊那谷の先輩お二人。小野寺清人さんの気仙沼を喰う会。殻付き牡蠣、剥き身牡蠣、海鞘、つぶ貝、帆立貝……など。二十数名。

23日(金) ▼水内慶太さんひよっこり来店。昨日退院されたの。後遺症はほとんど無いとのこと。奇跡的回復。安堵する。良かった！さすがにノンアルコールドrinkを少々だけに。発行所「門」同人会に貸し出し。あと「金星旬会」。終わって店へ五人。環、片岡さん、井蛙さん、井月忌俳句大会事前投句の集計作業など。ともかく閑散。

24日(土)▼午後、「纏句会」十四人。あとカウンターで兼題の青柳鰻。筍と若布、菜の花の煮物。白魚の天麩羅。あと握り。あと渋谷「鳥竹」にて小酌。エッセイの構想など。

25日(日)▼七時半発、家族で甲府へ。宮澤の父上の鍊辻様家族葬。
十八時半、帰宅。夕食は秩父の豚肉の味噌漬、焼売、若布と大根の
ポン酢サラダなど。

26日(月)▼秋田増田町の「日の丸醸造」へ行った仲間の反省会として六人。麦さんから「まんさくの花」二本。羽衣衣さんから台湾旅行のからすみの持ち込みあり豪華。三笠書房の押鐘会長他。

3月1日(木)▼店の月次表作成。選句追い込み。店、法政大学の大西先生二名。鈴木忍さん、元NHK水津さんは金子兜太先生の通夜歸りと。「十六夜句会」あと十五人、松山さんゲスト。

2日(金)▼環さん、女子会四人。「大倉句会」あと十六人。今週はなかなか多忙。有り難いこと。

水内慶太、加茂一行、祐森水香さん他、「月の匣」の方々。

15日(木) ▼土肥あき子さん久々。山田真砂年さん。「銀漢句会」あと十六人。

16日(金)▼発行所「葛句会」に選句。保谷政孝さん出席。透析治療に入られ、当初、苦しんだと仄聞していたが、すっかり克服され、顔も引き緊まつている。ユーモアのセンスも磨きがかかり、こちらが元気を貰う。会のあと八人。そのあと、法政大学の高柳先生と飯田高校のOBの方々四人。一人の方のひいお爺さんは、俳句をやっていて、山頭火が井月を訪ねてきて飯田で倒れた折、治療をしたと。全体的に飯田は短歌が盛ん。伊那は俳句志向の違いがあると。

17日(土) ▼朝から成城仲間の子供達の二分の一成人式の撮影会。十組ほど。 久々、私が夕食を作ることに。 結局、四家族ほどが残り、冥会に。 牡蠣土手鍋、からすみ、ステーキなどを用意。最後の撮影はワイドショット。キャスターの恵さん一家。私はゲームで食事を以て来。

18日(日)▼今日も終日家。今日も撮影。夜、私が料理。鶏焼、からすみ大根、独活と若布のサラダ。帆立貝とアスパラガスのバターソテー。蛍烏賊さつと煮など。

19日(月)▼店、藤森莊吉さんの「聞句会」九人。発行所、「演劇人句会」のあと十人。小川洋、竹内宗一郎さん。「ハルモニア」の幸田さん三人。桜開花……が、寒さのぶり返し。

20日(火) ▼桜並木を通って駅へ。一、二分咲き。しばらくはこの道を通ることに。「井月忌の集い」のスタッフ慰労会。環順子さん、片岡・花鳥さん他、「銀漢」の面々十二人。手製のからすみを併々すみ。誰かが近くのチャールハン店に走ってレタスミチャーハンを買ひ込みに、これに砕いたカラスミを振りかけてカラスミチャーハンに。飯田高校出身の下平さん、忘れ物取りにきて句仲間のおしく飲んでいる様子に驚いている。新潟日報大日方さんの法政大学の後輩、松井崇くんが長野日報駒ヶ根支社に赴任とて、駒ヶ根の話の聞きに來店。

3日(土)▼終日原稿書き。夜、雛祭。孫の内二人は女子。ちらし寿司、蛤の汁、秩父の豚肉味噌漬。からすみ、胡瓜と人参の浅漬など。

4日(日)▼四谷「主婦会館ブラザエフ」にて「第五回 井月忌の集い」。俳句部門は「銀漢」担当にて皆、良く手伝ってくれる。今回から事前投句も開始。まずは成功。同会館にて親睦会のあと、隣の店で二次会。

5日(月)▼彗星集選評書いて四月号終了。発行所「かさ、ぎ勉強会」
あと十二人。対馬康子さん。

6日(火)▼からすみ第二弾完成。上々の出来。前回と合わせて計十一腹作ったことになる。店、閑散。俳人協会総会あとの竹内宗一郎、鈴木忍さん他。

7日(水)▼「俳壇」五月号の「どう乗り越える? 句作の行き詰まり」特集へ六百字。店「きさらぎ句会」あと七人。「宙句会」あと十六人。「俳句aあるふあ」の中島さん、デザイナーの西郷さん来店。編集一段落と。

8日(木)▼結婚記念日。二十五歳で結婚したので四十三年前のこと。店「極句会」あと十六人。二名新入会あり。「りの」の山崎祐子さん。清人さんより、気仙沼大島の千葉さん逝去との知らせ。今夏、お訪ねするつもりであった……。

9日(金) ▼小川洋さん久々。西村麒麟さん夫妻。閑散。

10日(土) ▼10時、運営委員会。午後、麴町会館にて「銀漢本部句会」。五十名ほど。あと近くの中華料理店にて十二人程で親睦会。紹興酒に酔う。あと、どこかに寄ろうかと思ったがもう駄目……。

11日(日) ▼早起き。全国俳誌協会「全国俳句コンクール」の選句。

七百句の応募あり。
12日(月)▼句稿整理など。店、超閑散。

13日(火) ▼超結社句会「火の会」九人。あと閑散。

14日(水)▼発行所「梶の葉句会」。店、日経新聞、丸田さん。山本悦夫さん。伊那市の東京駐在員、下平さん。高遠の桜祭の宣伝に。

大生俳人。先日NHKテレビでコンピュターと俳句対決して勝った)の送別会。店を手伝っている方々と伊那北高同期生、井蛙、光汪の親睦会を兼ねて九人。春雪の降る柴又へ集合。強風と冷雨の夜の中、矢切の土手、帝釈天、山本亭などを散策。十五時過ぎには参道のあびす屋に入り、鯉こく、洗心、鰻などで酒盛り。草団子も五句出しして浅草に出る。ニュー浅草にて披露。そのあと、二句出し句会を二回。神谷バーに席を移して一句出し句会……と計四回、十句の句会となる。

22日(木)▼九時、「あ・ん・ど・うクリニック」。心電図、脈拍など二十四時間検査の機械を付ける。店、高校同期の「三水会」七人。「丘の会句会」あとの坪井、池田さん。

23日(金) ▼いつもと違う桜並木を通って駅へ。店、超閑散。井蛙さん来て、神田駅前の信州と縁のある店に行こうというので、二十時前に閉めてしまふ。「木花」という店。あと駅近くの焼鳥屋……。結局、二十三時頃まで……。あんなに早い時間に店を閉めてしまつ

てよかったのかどうか……。
24日(土) ▼桜並木を通して駅へ。日本橋「鮭の与志喜」にて「纏句

会」。十四人。あと題の鱒の味噌焼、鯛の桜葉蒸し、桜海老の茶碗蒸し、酒は広島島の「桜吹雪」。帰宅すると手巻寿司が準備してあり、やはり参加してしまふ。これはいけない！

25日(日)▼昼前、一時間ほど家周辺の桜並木を散策。汗ばむほどの陽気。六月号の選句など。夜、龍正くんの二分の一成入式と成城仲間が某ホテルへ。私は留守番をして華子、亮輔の夕食用意。莉子がスキ―合宿から帰宅。

26日(月) ▼桜並木を見て駆へ。発行所「一八句会」あと七人店へ。
「銀化」の梅田津さん他三人、勉強会。「知音」の小沢麻結さん
久々。常連が「俳句あるふあ」に連載を始めた私の料理のレタス
のオイスター炒めを食べたいとレタス持参するので作る。ついでに
豆腐も買ってきたというので湯豆腐とおじや……こんなことをし
ていては商売にはならず……。